

# 相談・配給延びる列

## 困窮者「弱者」が調整弁にされている 支援団体

新型コロナウイルス感染症が確認されて2年が過ぎました。東京都内では、生活困窮者の支援団体が取り組んだ食料などの配布や生活相談には、厳しい寒さにもかかわらず、会場からあふれるほどの人たちが訪れました。

(新井水和、津久井佑希、松沼環、林直子)

## 新宿「人増え、子連れ目立つ」

新宿区の都庁下で「新性」を訪れた男性(47)は、食料品配布と生活相談。開始1時間前、すでに200人が列をなしました。食料品は開始15分です。約70人から相談がありました。

朝7時から並んでいるという人は「私はきょうが初めて。5時から並ぶ人もいました。先頭にいれはるまで待てる日もありました。」「と話し、この日がこの瞬間という女性(47)は、職費年金と生活保護を利用しています。」「いろいろな個上りをしていて、保護費が増えるたびに『お金の不足がたね。医療相談も増え

たね。医療相談も増え

た。小さいお子さん連れも今週目立ちました」と指摘します。

「新宿ごはんプラス」の大西理共同代表(自立生活サポートセンター・もやい理事長)は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男

性もやい理事長は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男

性もやい理事長は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男

性もやい理事長は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男

性もやい理事長は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男

性もやい理事長は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男

性もやい理事長は「あらゆる職種で失業や収入減が起きており、非正規男



新宿区の列に並ぶ人々(22日、東京都港区)

「お弁当は金額分りません。配布が始まるまで走り回ります。ハンドマインを通し、『TENO HASTY』(このはし)のスタンプの音が豊島区

東池袋の公園に響きま

す。背後を背負う人、子連れ、スニーカーをもった人の姿が、

「ちゃんと働けないのがつらい。仕事がないか、先が見えない。その話をするのは、いまは派遣で働く50代男性(東京都豊島区)。正社員で物流の仕事をしていました

が、コロナでリストラま

だ。夜を明かすことも、極寒の寒さです。コロナの

お風呂もつらい。現金給付がなければありがたい。一

桁さ、ずっと怖いんで

「酒野さんは「路上生活者はコロナにかかったら療養できない。都に対策を求めたが『福祉事業所に相談して』と言われた」と危機感を表しました。路上生活者への体制整備のための予算をつけてほしい。感染した路上生活者のためのホテルを一定数用意すべきです」

「このはし」の酒野(せいの) 酒野代表理事は、年末年始と比べてこの日は「200人が増えた。相変わらず高齢者は多いが、その中に働き盛りの世代の人々も増えている」と指摘します。この日は400人に弁当を配布しました。

「お弁当は金額分りません。配布が始まるまで走り回ります。ハンドマインを通し、『TENO HASTY』(このはし)のスタンプの音が豊島区

東池袋の公園に響きま

す。背後を背負う人、子連れ、スニーカーをもった人の姿が、

「ちゃんと働けないのがつらい。仕事がないか、先が見えない。その話をするのは、いまは派遣で働く50代男性(東京都豊島区)。正社員で物流の仕事をしていました

が、コロナでリストラま

だ。夜を明かすことも、極寒の寒さです。コロナのお風呂もつらい。現金給付がなければありがたい。一桁さ、ずっと怖いんで